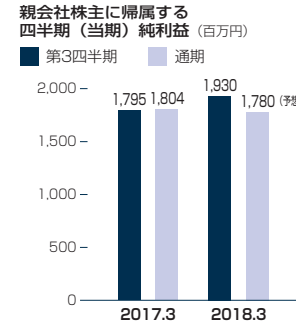
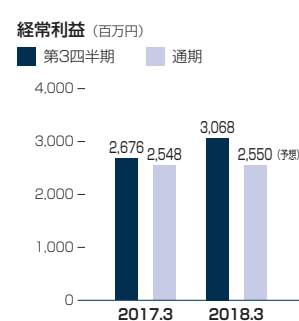
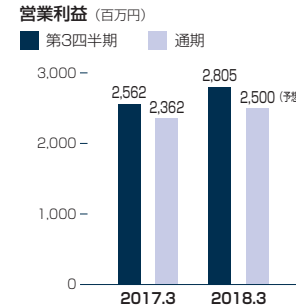
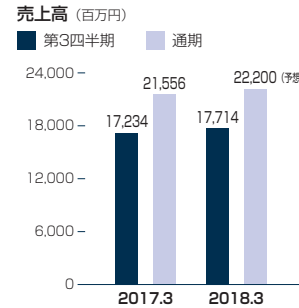




当第3四半期の連結業績

	(第3四半期実績)	(前年同期比)
売上高	17,714百万円	2.8%増
営業利益	2,805百万円	9.5%増
営業利益率	15.8%	0.9pt増
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,930百万円	7.5%増
1株当たり四半期純利益	68円12銭	6円40銭増

製品別売上高 (百万円)	(第3四半期実績)	(構成比)	(前年同期比)
上場会社 ディスクロージャー関連	7,701	43.5%	1.7%増
上場会社IR関連等	4,406	24.9%	9.3%増
金融商品 ディスクロージャー関連	5,243	29.6%	0.0%減
データベース関連	363	2.0%	5.9%減



資産・負債の状況 (百万円)

流動資産	17,937	流動負債	3,908
固定資産	11,757	固定負債	3,088
資産合計	29,694	負債合計	6,996
		純資産合計	22,698
		負債純資産合計	29,694

株主優待制度 内容変更のお知らせ

長期保有の株皆様のご支援に一層報いるとともに株主優待制度の魅力を高めるため、当社株式を保有していただいている株皆様には、保有年数（1年未満、1年以上、3年以上）と所有株式数（100株以上、1,000株以上）に応じてQUOカードを贈呈していますが、2018年3月31日より新たに保有年数（5年以上）を追加いたします。

■毎年3月31日現在の株皆様を対象に、保有年数*と所有株式数に応じてQUOカードを贈呈

所有株式数 \ 保有年数	1年未満	1年以上	3年以上	<新設> 5年以上
	100株以上	500円分	1,000円分	1,500円分
1,000株以上	1,000円分	3,000円分	5,000円分	7,000円分

*「保有年数」は、同一の株主番号が株主名簿に継続して記載されている年数を指します。

株主通信 2018年3月期 第3四半期決算ご報告
(2017年4月1日~2017年12月31日)

株式会社プロネクサス 証券コード：7893
(東証一部)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

(連絡先) 東京都府中市日鋼町1-1
電話 0120-232-711 (通話料無料)
(返選先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

●本報告書は2017年9月末時点での株主の皆様にお送りしています。

まずこちらを

開

濡れている場合は乾かしてから
はがしてください。

会社概要 (2017年12月31日現在)

商号	株式会社プロネクサス
創業	1930年12月15日
設立	1947年5月1日
資本金	30億5,865万円
本社	〒105-0022 東京都港区海岸一丁目2番20号 汐留ビルディング
主な事業内容	ディスクロージャー・IR実務に係る総合的支援サービス
従業員数	1,059名(連結) 714名(単体)

主な事業所および工場

大阪支店	札幌営業所	名古屋営業所
広島営業所	福岡営業所	戸田工場

グループ会社 (連結子会社)

株式会社アスコミュニケーションズ 日本財務翻訳株式会社
台湾普羅納克廈斯股份有限公司(プロネクサス台湾)(他、持分法適用関連会社2社)

株式インフォメーション

■株式に関するお手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部	
連絡先	郵送先
東京都府中市日鋼町1-1 0120-232-711 (通話料無料)	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

2. 特別口座に記録された株主様の株式に関する各種お手続きに関しましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記へお問い合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

■株主優待・IR/財務情報に関するお問い合わせはこちらへ

株式会社プロネクサス 社長室 03-5777-3145
メールアドレス asp@pronexus.co.jp

注記事項 ※本報告書は、2018年1月31日発表の2018年3月期第3四半期決算短信の数値、文章を基に作成しています。その後公表される可能性がある訂正情報、業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページにてご確認ください。

株主の皆様へ



「新中期経営計画2018」
3ヵ年目標の達成に向けて、
成長のための基盤を
一層強化してまいります。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

郵
便
は
が
き

当第3四半期(4-12月の四半期連結累計期間)は、コーポレートガバナンス・コードを背景とした投資家への情報提供強化の動きがより幅広い企業に浸透し、株主向けツールのビジュアル化や翻訳サービスなど、関連製品の売上が増加いたしました。これらの増収が前期の大型IPO受注の反動減等のマイナス要因を補った結果、当第3四半期の連結売上高は、17,714百万円(前年同期比2.8%増)となりました。

利益面では、制作体制強化に伴って労務費が増加する一方、コスト削減や販管費の抑制に努めたことにより、原価率・販管費率はいずれも前年同期比で微減となりました。これらの結果、営業利益は2,805百万円(同9.5%増)、経常利益は3,068百万円(同14.7%増)親会社株主に帰属する四半期純利益は1,930百万円(同7.5%増)となりました。

当社は、2016年4月から、「新中期経営計画2018」を全社的に推進しております。コア事業であるディスクロージャー支援サービスの基盤を固めつつ、システムサービスの強化やBPO^(※)、コンサルティングサービスの拡充を通して開示・IR周辺の実務支援領域を拡張してまいります。これに加えて一層のコスト削減の取組みを進め、中計3力年の目標達成を目指します。

株主の皆様には引き続き、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しく御願い申し上げます。

※ビジネスプロセス・アウトソーシング

2018年2月 代表取締役社長 上野 剛史

製品別の概況

＜上場会社ディスクロージャー関連＞

招集通知のカラー化が一層進展したことによる受注単価の上昇に加えて、開示書類作成を支援するシステムサービス・アウトソーシングサービスの増収やファイナンスの増加が寄与しました。これらの増収が決算関連書類の減収や前期の大型IPO受注の反動減を上回り、売上増となりました。

＜上場会社IR関連等＞

コーポレートガバナンス・コードの制定を背景として、英文IR(翻訳)サービスやIRサイト構築等のWebサービス、株主総会ビジュアル化サービス、広告等の受注が増加した結果、売上増となりました。

＜金融商品ディスクロージャー関連＞

国内投資信託市場は一部停滞傾向がありましたが、資金が流入に転じてファンドの設定本数が増加しました。システムサービスを核とした営業活動を継続した結果、目論見書・運用報告書の受注が増加しました。また、外国債券も設定本数の増加と説明資料の拡充が寄与しました。一方、前期好調であったJ-REIT市場のIPO・ファイナンスの減少に加えて外国投信も市場が停滞し、前年同期とほぼ同額の売上高となりました。

＜データベース関連＞

既存顧客の契約更新が順調に推移するとともに新規顧客の開拓が進展しました。一部サービスの終了による減収もあり、売上高は前年比微減となりました。

配当方針・自己株式について

1. 配当方針

連結配当性向「30%以上」を基準として、安定配当をベースに業績、経営環境等を総合的に加味した配当を継続してまいります。

実績・予想	年間配当金(円 銭)			配当性向(%)	純資産配当率(%)
	第2四半期末	期末	合計		
2017年3月期	11.00	13.00	24.00	38.6	3.3
2018年3月期(予想)	13.00	13.00	26.00	40.9	

2. 自己株式について

- 2017年12月末時点の発行済株式総数は33,444千株、うち5,127千株(15.3%)が自己株式となっております。
- 2018年1月31日付で、60万株を上限とする自己株式の取得を決定し、翌2月1日に60万株取得を完了しました。
なお、上記の配当性向は今回の自社株取得を加味して算出したものです。